

# オーストラリア科学奨学生の派遣

令和7年度予算額（案） 3百万円  
(令和5年度予算額 ※隔年実施 3百万円)



## 背景・課題

- 昭和43(1968)年、シドニー大学内物理学財団が、優秀な日本の高校生 5 名の招致に係る滞在費等奨学金を当時の佐藤総理に贈呈したことで、事業創設。本プログラムに同総理大臣の名を冠することとし、財団の用意する奨学金授与の証書を総理から授与されるよう希望が出され、総理の承諾を得て「佐藤総理オーストラリア科学奨学生」の名称の下、実現。
- その後、米国及び英国等の参加国の名称にならい、昭和50(1976)年度以降は内閣総理大臣個人名を冠せず、「内閣総理大臣オーストラリア科学奨学生」と称することとし、奨学金授与証書は文部科学大臣から派遣高校生に授与されることとなった。
- 平成21(2009)年度より、内閣総理大臣の冠が外れ、「オーストラリア科学奨学生」と称することになった。

## 事業内容

シドニー大学内物理学財団が1年おきに同大学内において世界中の高校生を集めた「高校生のための国際科学学校」事業を開催している。文部科学省は日本代表として派遣する高校生を選考し、オリエンテーションの実施後、派遣している。

参加高校生は、ノーベル賞級の科学者から最新の科学知識に関する講義を受け、他国からの参加高校生との交流を深める。

### 【文部科学省負担】

- ・高校生及び引率教員の日本国内⇄シドニー間のエコノミークラス往復航空券

### 【シドニー大学内物理学財団負担】

- ・科学学校の講義用テキスト、
- ・シドニー滞在中の宿舎（シドニー大学内ウィメンズカレッジの食事付寮）



## プログラム

- 当該プログラムは各国から人気が高く、国ごとの人数枠はオーストラリア政府によって決められる。
- 昭和43(1968)年度[第11回]から参加し、毎回5名ずつ、平成7(1995)年度[第28回]からは7名ずつ参加。平成9(1997)年度より日本の派遣者枠が3名増員され、10名の派遣が可能となった。
- 当初は毎年開催されていたが、昭和50(1976)年度から隔年実施。

### 【令和5年度】（実績）

- 派遣人数： 10名（引率教員1名別）
- 期 間： 令和5年7月2日～7月15日
- 場 所： シドニー大学
- テーマ： Frontier Science
- 参加国： オーストラリア 90名、日本 10名、中国、インド、ニュージーランド、タイ、イギリス、アメリカ  
…計 138名



## アウトプット（活動目標）

- ・オーストラリア科学奨学生の派遣人数

※ シドニー大学より、毎回の日本からの参加生徒の成績や積極性等から、継続して同じ人数枠を確保いただいている。

## アウトカム（成果目標）

- ・オーストラリア科学奨学生として派遣された生徒の理系又は国際関係学部への進学率

※ ほぼすべての参加生徒が、理系又は国際関係学部へ進学している。

## インパクト（国民・社会への影響）

- ・特に理工学、医学等の分野における、日本の将来を支えるグローバルに活躍できる人材の育成
- ・留学機運の醸成

(担当：総合教育政策局国際教育課)